



デンマークの 食と暮らし研究会

NEWS LETTER NOV 2021

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F
Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406 ホームページ : <http://www.danishforum.jp/> メール: info@danishforum.jp

デンマーク人と犬

デンマーク人は日本人と同じように犬や猫がとても好きです。デンマークでも日本と同様に、家庭で飼うペットとして最も人気があるのは犬で、デンマークの全世帯の20%が犬を飼っています(日本では13%)。この違いは、犬は場所をとること、デンマークでは犬を飼いやすい郊外の住宅地に住んでいる人が多いことが関係していると思われます。これに反して猫は場所をとらず、デンマークと日本では猫の飼育率がほぼ同じで約10%の世帯が猫を飼っている事にも反映されています。他の多くの生活様式に関する話題と同様に、2020年の初頭に始まったパンデミックの間、物事はかなり変化しました。たくさんの職場が封鎖され、多くのホワイトカラー労働者が自宅で仕事をし、子供たちも自宅で授業を受けました。それまで犬を飼うことを決めかねていた多くの家庭にとって、これは子供たちのしつこいおねだりに妥協するきっかけになりました。通勤という日々のルーティーンを奪われたことで、朝、近所で犬を散歩させるという手間は、却って魅力的でさえあると思われたのかもかもしれません。従って、2020年の初めには犬(と猫)の需要は急激に高まりました。日本と同様に、これはロックダウンが終わると放棄されるペットたちが急増するのではないかと専門家たちに懸念されました。日本と同様に、これはロックダウンが終わると放棄施設に引き渡すことができ、ペットが新しい家族とマッチすることができるよう計られています。実際には、放棄されたペットの問題はそれほど大きくありませんでした。通常の仕事に戻った後でも、デンマークの実際の日常生活では通勤にかかる時間が比較的短く、残業をすることは寧ろ例外です。もう一つの要因はデンマークの厳しい規制によって犬の衝動買いが抑えられている事です。ペットショップでは犬の販売が一切許可されておらず、犬を取引する人は専門的な訓練と資格が必要です。その資格を持つブリーダーから犬を購入する時は少なくとも数カ月待たなければなりません。別の方法として、多くのデンマーク人はペットの保護施設からかつて飼われていた犬を引き取る事を選びますが、その場合も新しい飼い主は犬を適切に世話できるかどうかを審査されます。

猫は別です。犬と同じ法律が適用されますが、猫は手に入りやすく多くの猫は個人的に取引されています。あいにく、デンマークにはますます増える野良猫の数を知る確かな方法がありません。たとえそうだったとしても、ほとんどのデンマーク人はそれを大きな問題だとみなしていません。猫はより独立していてミステリアスでさえあり、デンマーク人の本能であるヒュグゲ的(好ましい)親しさを感じさせるペットとは違った生き物と認識されています。おそらく、それが結局のところデンマーク人が犬を好む理由です。(Jens Ring)



デンマークの人達のコロナウイルスについての考え方

世界的にコロナウイルスが大流行するよりずっと以前、日本を訪れるデンマーク人は公共の場で多くの人がマスクをつけていることに気付いていました。当時感じたのは、空気汚染、或いは風邪やインフルエンザのようなありふれた病気に備えて自己防衛の為にマスクを使用しているに違いないというものでした。マスクをつける主な目的が、マスクの着用者から周りの人に風邪がうつるのを防ぐためだとデンマーク人が知った時、マスクの着用は公共の場での日本人の並外れた社会意識と責任ある行動の中の1つの例となりました。言い換えれば公共の場でマスクをつける習慣は、ヨーロッパからの訪問者から見ると日本文化の基本である礼儀正しさと規律を表すものとなりました。コロナウイルスの発生はこの文化の違いの解釈に突然新しい側面を加えました。日本でコロナウイルスが確認された時、マスクの着用は今まで何度も経験した空気媒介の呼吸器系の病気の流行と同じように当然の用心としてすぐに取り入れられました。対してデンマークでは、例えば公共交通機関



では2020年8月までマスクの義務化をしていませんでした。その代わりにデンマーク政府は集会の禁止、学校、レストランやショッピングモールを閉鎖し積極的に検査と追跡をすることにしました。いずれにしても、ウイルスの拡散を完全に防ぐことはできませんでした。それよりも、病院の収容能力を超えないようにウイルスの拡散を遅くすることが狙いでした。その結果、公共交通機関や公共の場所でのマスクの義務化を長い間解除してきました。デンマークの街やお店で今でもマスクをしている人をたまに見かけますが、かなり珍しいことです。コロナ感染者数は日本ほど少なくありませんが、マスクを依然として義務化している他の多くの国よりはるかに少ないです。そして、たとえ今年の冬感染者数が増えるとしても、多くのデンマーク人は非常に安心してマスクをはずし、秋の心地よい風を楽しむでしょう。実際、デンマークと日本どちらも取り組み方が異なっていたとしても他の多くの国よりずっと効果的にコロナウイルスの大流行に対応してきたようです。日本の成功は清潔さと個人衛生の根付いた習慣によるものに違はなく、一方デンマークは変異種の拡散に対しても効率的な検査、観察そしてそのデータを対策の指針にしてきました。デンマークではこれまでも畜産において徹底的なトレーサビリティとそのデータ利用が長い間行なわれてきました。そこでは全ての農場の動物の所在地や健康状態が政府のデータベースで監視され、動物医学や動物や人間の薬の抗生物質耐性に関する資料として使われています。

日本とデンマークは地球上で最も安全な国に含まれています。そしてコロナウイルスの流行は終わっていませんが、今デンマークを訪れる事が出来れば、ワクチン接種済か陰性証明の書類を持っている人であれば、マスクをしない生活が楽しめます。外では秋の景色、レストランやお店の中にとっても一。(Jens Ring)



デンニッシュマークは安心ポークの証し

デンニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。



Bluetoothとデンマーク

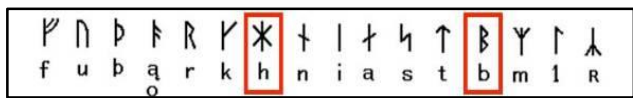
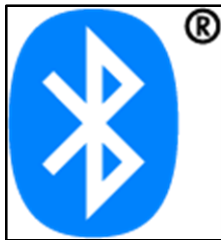
最近よく耳にするBluetoothという言葉にデンマークの歴史が深く関わっている事をご存知でしょうか。

Bluetoothは近距離無線通信を行なう機器同士が、接続しやすいように規格を標準化するために生まれたものです。

この「PC業界と携帯業界を近距離無線でつないで統合しようとしている」様子を、10世紀にデンマークで活躍したハーラル1世がデンマークとノルウェーを交渉により無血統合し、文化の橋渡しをした政治に見立て、スウェーデンのエリクソン社の技術者が名づけました。

ハーラル王には虫歯があり、その歯が青黒い灰色だったため「青歯王」と呼ばれていたところからBlue(青い)Tooth(歯)「Bluetooth」と名づけられました。

そしてBluetoothのロゴは、そのハーラル王(ハーラル・ブロンタン・ゴームソン/Harald Blatand Gormsen)のルーン文字での頭文字を組み合わせたものです。



2021年デンマーク食品農業大臣賞 表彰式

2021年9月16日(木)デンマーク大使館にて、ハニューフーズ株式会社 浅田勘太郎代表取締役社長にデンマーク食品農業大臣賞が授与されました。



クリスマスプレゼント

本年もお世話になりました。感謝の気持ちをこめて、ささやかですがクリスマスプレゼントをご用意しました。

ロイヤルコペンハーゲンのイヤープレート 1名様
ジョージジェンセンのオーナメント 5名様
合計6名様にプレゼント致します。

<応募方法>

貴社名、氏名、送付先住所、電話番号、ご希望の商品名をご記入の上、下記メールアドレスまでご応募下さい。

メールアドレス: info@danishforum.jp

件名は「クリスマスプレゼント応募」と入力して下さい。

2021年12月12日締め切り。

当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

たくさんのご応募をお待ちしております。



編集後記 2021年も食と暮らし研究会のニュースレターをお読みいただきありがとうございました。来年はたくさんの方々とお会いできることを楽しみにしています。E.Y A.F

黄金の財宝発見

2020年12月末、アマチュア考古学者がデンマーク南西部イェリングの郊外ヴィンデレフの野原で金属探知機を生まれて初めて使ってみたところ、数時間後に金属探知機が反応。掘り進めると、ねじれた缶のふたのようなものが次々に



見つかりました。実際は缶のふたなどではなく、約1500年前に埋められた財宝でした。この時代スカンジナビアは飢饉に陥っており、これらの財宝は神への捧げものと考えられています。そしてこれだけの財宝を集められる権力者がいたと推測されています。発掘された金の財宝は全部で22個、重さは合わせて約1kgにもなりました。

財宝の中で一番多かったのは300年~700年頃に北ヨーロッパで流行した「ブラクテアートbracteate」でした。このブラクテアートは女性



が身につける薄いメダルのような飾りだったそうです。これらにはお守りとしてルーン文字が刻まれている事が多いのですが、今回専門家にも読めないシンボルが多数見つかり、デンマークの文化史上も貴重な発見といえます。

今回発見された財宝は、ヴェイユ博物館の考古学者が国立博物館と協力し、デンマーク文化遺産庁の資金援助を受けて発掘し、2022年2月にヴァイレ美術館の大規模なバイキング展の一部として展示される予定です。

トランスジェンダーのパパと家族の物語

映画「パーフェクト・ノーマル・ファミリー」

2021年12月24日~新宿シネマカリテほか全国で順次公開

1990年代のデンマークを舞台に、父親が性別適合手術を受けることになった家族の物語を、10代の多感な娘の視点から描いたヒューマンドラマが日本で公開されます。本作は、11歳の時に父親が女性になったというマルー・ライマン監督の実体験を基に作られました。



<あらすじ>

デンマークの郊外で暮らすエマは、地元のサッカークラブで活躍する11歳の女の子。幸せな家庭で充実した日々を送っていた。ところがある日突然、両親から離婚すると告げられたことで彼女の日常が一変する。しかも離婚の理由は“パパが女性として生きていきたいから”だった。

ホルモン治療によって日に日に女性らしくなるパパのトマスが、やがて性別適合手術を受けるという現実を受け入れられず、ひとり思い悩み、時にはやるせない苛立ちを爆発させる。パパのことが大好きなエマが、幾多の葛藤の果てに気づいた自分の気持ちとは――。

本作はデンマーク・アカデミー賞で9部門にノミネートされ、メイクアップ賞、児童青少年映画賞を受賞しました。